



福岡県行政書士会 各部・委員会紹介 第1回 総務部

福岡県行政書士会
広報部発行

福岡県行政書士会は、行政書士の業務の改善や進歩を通じて、国民の皆様のお役に立てるよう日々各業務に取り組んでいます。こうした会の運営を支えているのが、所属する行政書士たちです。本業と並行しながら「会務」を担い、会の円滑な運営や社会貢献活動の推進に力を尽くしています。本企画では、そうした「行政書士会の現場」を担うメンバーにスポットを当て、活動の実情や思いを紹介していきます。第1回は、総務部副部長として活躍する、リブラ行政書士事務所 宮下貴史先生にお話を伺いました。

総務部

【部長】 河野 錠二

【副部長】

小宮 秀太 宮下 貴史
鶴澤 怜也 忝岡 葉子
竹内 美貴 大石 志保
上別府 宣治 矢野 克巳



～総務部は、行政書士会の会議・運営から備品管理までを担う、縁の下の力持ち～

広報部（以下「広」）：

本日はお忙しい中、ありがとうございます。まずはお名前とご担当について教えていただけますか？

宮下副部長（以下「宮」）：

はい。リブラ行政書士事務所の宮下貴史と申します。行政書士に登録して今年で4年目になります。前期2年間に引き続き、今期も総務部の副部長として活動しています。

広：総務部というと「会の裏方」といったイメージを持つ方も多いかもしれませんが、具体的にはどのような役割を担っているのでしょうか？

宮：「何でも屋」という言葉が合うのかもしれませんが。メインの業務は会議の運営ですが、それだけではありません。事務局の方々の採用や労務管理、会館の備品手配、場合によっては会館の改装にも関わります。使わなくなった備品のリストアップや処分手続き、帳簿との照合まで行うなど、多岐にわたっています。

広：まさに「縁の下の力持ち」ですね。そうした業務の中でも、特に大きな行事といえば何でしょうか？

宮：やはり5月の「定時総会」が最大の山場です。それ以外にも6月の「全体会議」、年明けの「賀詞交換会」、さらに不定期で開催される、九州各県の行政書士会による会議などの運営にも関わります。これらの会議では、他県の方の宿泊手配や会場手配など、事務的な手続きも私たちの担当です。

広：大きなイベントの裏で、事前準備がどれだけあるのか想像以上です……。

宮：実際、例えば総会の準備は年明けくらいから少しずつ動き始めます。会場との打ち合わせや予約などは一年前から行っているんですよ。1月の賀詞交換会と並行して、5月の総会の準備、来賓の招待リストの作成や確認作業など、業務量が多いながらも一つひとつが大切なものです。だからこそ、イベントが終わったあとの達成感は大きいですね。

広：総務部に関わるようになったきっかけは何だったのでしょうか？

宮：ある意味「立ち話から始まったご縁」なんです。行政書士会の定時総会に参加をしていたのですが、総務部長が新しく変わるタイミングに、当時の博多支部長から河野総務部長をご紹介してもらいました。そこで、「総務部やってみない？」と声をかけていただけたんです。チャンスを頂いたことがありがたくて、迷わず「やります」と即答しました。

広：即答できるその姿勢がすごいですね。

宮：私は「必要とっていただけるのであれば、悩まずやろう」という考えなんです。個人事業主なので、誰かに確認を取る必要もないですし、言われたら即答で対応していきます。

広：実際に総務部で活動されていて、「この仕事をやってよかった」と感じる瞬間にはどんなものがありますか？

宮：やはり、大きなイベントが無事に終わったときですね。賀詞交換会や総会は準備も当日運営も本当に大変ですが、総務部のみんなで力を合わせてやり遂げると、大きな達成感があります。行政書士って個人業の世界なので、他の行政書士と一緒に「チームで何かをやる」って、実は貴重な経験なんです。

広：まさに総務部ならではの醍醐味ですね。チームの雰囲気はいかがですか？

宮：とても明るくて、オープンな雰囲気です。前期も今期も、笑顔が絶えないメンバーばかりで、本当に良いチームです。会務は責任もありますが、会長や副会長からも常に「楽しんで会務をやってほしい」とお声掛けいただいているので、前向きに取り組んでいます。食事会や忘年会などで交流することも多いですよ。

広：そういうオフのつながりも、関係性を深めるうえで大切ですね。

宮：そうですね。例えば、賀詞交換会や総会の本番では運営側なので食事などをゆっくり楽しむことはできないのですが、そのあとの打ち上げで、総務部だけで集まって食事をするというのも楽しみの一つです。

広：会務というと「ボランティア的」なイメージを持たれる方もいますが、総務部としてはそこも改善の意識をされていると聞きました。

宮：はい、そこは大事にしています。総務部では「ただの善意で動くのではなく、きちんと責任をもって取り組む」ことを方針にしています。副部長は部会ごとの作業や打ち合わせにかかる時間をしっかり記録して、それに合わせた日当もきちんと計算しています。責任ある立場だからこそ、自発的に考え、協力し合って動ける、そんなチームだと思います。

広：特に若い行政書士の方が、総務部をはじめとする「行政書士会の運営サイド」に関わることは、どのような意義があるとお考えですか？

宮：一番は人脈ですね。月に何度か顔を合わせたり、電話したりすることもありますし、土日や夜中に連絡を取ることもあります。それだけ密に関わると、その人がどんな仕事をする人なのかも自然と見えてくるんです。実際、総務部でのつながりから仕事を紹介してもらったこともあります。



広：横だけでなく、縦のつながりも生まれるということですね。

宮：そうです。特にベテランの先生方とのつながりは大きいですね。たとえば建設業関係で分からないことが出てきたときに、「今電話していいですか？」とLINEで一言確認すれば、すぐに電話で答えてくれるような関係が築けている。それって、会務をやっていないとなかなかできないことだと思います。

広：そういった信頼関係を築けるのも、会務に参加しているからこそなんですね。

宮：はい。登録して間もない頃って、意外と時間があるんです。その時間を使って会務に関われば、いろんな先輩と話ができるし、その中で「ちょっとこの仕事手伝ってみたいな？」と声をかけてもらえることもある。そうして経験が増えていくんですよ。

広：登録して間もない方の中には、「興味はあるけれど、一步を踏み出すのが難しい」という方もいらっしゃるかもしれません。

宮：気持ちはよくわかります。今回、副部長の公募もありましたが、応募するのに心理的ハードルを感じた方も多かったのではないのでしょうか。でも、声がかかったとき、あるいはチャンスがあったときに「やってみよう」と思えるかどうかが大事だと思います。私自身もそうでしたし、実際にやってみて得たものはすごく大きいです。

広：まずは関わってみる、その第一歩が重要なんですね。

宮：ええ、何事も経験だと思います。たとえば支部の行事や研修に参加してみるだけでもいい。そこで顔を覚えてもらえれば、いつか「一緒にやってみない？」と声がかかることもあると思います。

広：それでは、総務部の一員として福岡県行政書士会にどのように関わっていきたいですか。

宮：総務部は、どちらかというと「新しいことを企画する」よりも、会全体の流れに沿って、既定の事業をどうスムーズに、そして楽しく実行するかを考える部署です。たとえば各部が立てた事業計画や、会長・副会長の方針に基づいて、どう現場で動かしていくか。それを共有するのが全体会議の役割でもあります。

広：会全体の「地盤」を整える立場とも言えそうですね。

宮：まさにそうですね。でも、総務部として会務に関わっていると、会長や副会長の想いや方針が、どこか他人事ではなく「自分ごと」として自然に響いてくるんです。だからこそ、自分の役割の中で何ができるかを考え、行動に移すことができる。そういう感覚が芽生えるのが、会務の大きな魅力でもあると思います。

広：では最後に、この記事を読んでいる登録年次の若い行政書士の方や、これから行政書士を目指す方に向けて、メッセージをお願いします。

宮：会務って「大変そう」とか「忙しいんじゃないか」といったネガティブなイメージを持たれがちですが、実際はそれ以上に得られるものが多いです。人脈や経験はもちろん、重鎮の先生方と話せる機会もあり、自分一人では見えなかった世界が広がります。

広：なるほど、最初の一步が大事ですね。

宮：はい。どの部が向いているか分からないという方も多いと思いますが、まずは興味を持ったところに関わってみる。支部の行事や研修に参加するだけでも十分なスタートです。誰かが声をかけてくれるのを待つよりも、自分から一歩動いてみる。そうすれば、いろんな出会いや学びが得られると思います。総務部のメンバーも現在募集中です。ご興味のある方はぜひいつでもお声掛けください！

広：本日は貴重なお話をありがとうございました！

～プロフィール～

福岡県行政書士会 総務部 副部長
リブラ行政書士事務所

宮下 貴文（みやした よしふみ）

登録年月日 令和4年1月1日



～広報部あとかき～

「縁の下の力持ち」とも称される総務部。その名のとおり、会議の運営や備品の管理、会館の環境整備から事務局との連携まで、あらゆる「土台となる業務」を担う存在でした。しかし、実際に話を伺ってみると、その活動は決して地味なだけではなく、行政書士会全体をつくり支える、非常に重要で責任ある部署であることがわかりました。

総務部での活動は、経験や人脈、信頼関係を築く大きなチャンスでもあり、行政書士としての成長にもつながる場です。会務というと難しく感じるかもしれませんが、「まずはやってみる」ことで見えてくるものがたくさんある。そんな実感を持てる取材となりました。

